

省の豫算に計上する等の手段に依り内務、大蔵、交通、文部等の豫算に組入れ假裝しあるを以て實際は之より遙かに多し。而して歩兵二師團、野砲兵二十四中隊、重砲兵九中隊、高射砲八中隊、飛行隊に編成せられ既教育兵十五萬を有す。

六、瑞典

一般兵役義務に依る幹部常設軍にして平時兵力一萬二千乃至五萬七千戰時兵力四十萬なり。平時兵力は歩兵四師團半、野砲兵二十中隊、重砲兵十五中隊、高射砲五隊、飛行隊十二隊に編成せらる。陸軍豫算

は七千三百萬クローネにして總豫算の十一%に相當す。

七、那威

一般兵役義務に依る民兵制にして平時兵力一萬八千乃至三萬戰時兵力十一萬なり。平時兵力は歩兵六師團、野砲兵三十一中隊、重砲三三中隊、飛行隊四隊に編成せらる。陸軍豫算は二千百萬クローネにして、總豫算の六、三%に相當す。

二、奧大陣

其の對策に依る幹部常設軍にして平時兵力一萬二千乃至五萬七千戰時兵力四十萬なり。平時兵力は歩兵四師團半、野砲兵二十中隊、重砲兵十五中隊、高射砲五隊、飛行隊十二隊に編成せらる。陸軍豫算

佛、獨、伊關係諸國重要事件曆日表

月	日	事
二	四	獨逸政戦休日満期。獨逸政界各黨領袖會議の結果二十四日國會再開に決す。
三	五	獨逸政府三月三十一日期限の對米債務三千三百萬マートク支拂不能通告の旨發表。
三	六	西班牙大蔵省外國爲替統制の法令發布。
三	七	アルベニア政府伊國との關稅合同説を否認。
三	九	世界經濟會議準備委員會セネヅアに開會。
三	一〇	佛藏相シエロン氏滯納稅金に對し一割増徴を發表。
三	一一	獨逸社會民主黨聯邦政府に對し日支紛争に關し三項の反日的質問を提起。
三	一二	瑞典のマツチ王故クロイゲル氏の大詐欺事件最終報告發表(過去十四年間に二千四百萬磅を費消)。
三	一三	佛藏相シエロン氏閣議にて赤字百五億四十萬フランと發表。
三	一四	獨逸政府各國大使館に武備派遣を發表。
三	一五	佛ボンタール首相巴里に於て英サイモン外相と會見。

月	日	事
三	一六	佛政府緊急閣議、シエロン藏相の赤字對策承認。
三	一七	獨逸藏相クロジツク氏議會豫算委員會にて本年度赤字二十億七千マートクと發表。
三	一八	佛下院にてボンタール首相日支問題に就き聯盟擁護強調。
三	一九	チエッコ首府ブライグの日本領事館投石。
三	二〇	獨逸首相シエライヘル氏伯林の民衆大會席上獨逸の最後目標は徵兵制度獲得にありと述べ。
三	二一	伯林大使館附武官事務所共產黨示威運動に投石。
三	二二	佛國藏相シエロン氏赤字百億フラン補填の財政案を下院に提出。
三	二三	世界經濟會議準備委員會專門家總會報告書可決。
三	二四	獨逸外相ノイタート氏國會外交委員會に於て聯盟の日支間調停を勸告。
三	二五	伊國政府米國の戰債會商招請を公表す。
三	二六	西班牙のカタロニア州政府總辭職。
三	二七	チエッコ中央銀行四分半より三分半に利下。

二五	世界經濟會議準備委員會英首相マクドナルド氏を議長に推薦す。巴里取引所罷業	一
二六	佛下院フランゲン氏の豫算案返却動議を否決す	一
二七	佛下院財政案討議	一
二八	佛ポール・ボンクール内閣下院の信任投票に敗れ總辭職	一
二九	獨逸シュライヘル内閣總辭職 物品購入に關する獨逸の對露借款協定調印 佛國急進黨領袖ダラディエ氏組閣受諾 獨逸各労働組合パーベン内閣出現阻止の電報數百通を大統領に送る	一
三〇	獨逸ヒットラー内閣成る(パーベン氏副首相) ミュンヘン市にて國粹共產黨衝突 ヒットラー氏、内相フリック氏を通告し聲明書を發し列國と友好保持を宣明す 佛國社會黨議員大會ダラディエ内閣支持の「條件」を決す 和蘭の紡績業不況のため失業工増出(原因は日本品進出のためと云はる) 佛國ダラディエ内閣成る(外相ボンクール氏) 伊太利政府及チエツロ政府米國の戦債招請受諾	一
三四	獨逸新首相ヒットラー氏大統領並國粹黨員に感謝聲明 獨逸新内閣國債所有者不安除去の聲明を發す 獨逸國會再解散に決す、左翼各派ヒットラー内閣に「宣戰」を布告す 獨逸國會解散 ヒットラー首相所謂四箇年計畫を全國に放送 一月十五日獨逸失業業者五百九十六萬六千人 獨逸警察隊プロシヤ共產黨の本支部に大手入 佛新首相ダラディエ氏兩院に施政方針宣明、下院信任投票可決 獨逸前皇帝歸國説否認さる 獨逸社會民主黨機關紙フオールウェルツ紙三日間發行停止 蘭領東印度海軍スクラバヤ根據地に海兵暴動起り土民水兵四百名逮捕さる プロシヤ議會及三人會議、議會解散動議否決 獨逸政府プロシヤの各市會及地方議會の解散を命ず ヒットラー内閣言論自由制限の緊急大統領令公布 佛、白、獨、リニクセンブルグ四國の鋼鐵カルテ	二

一〇	英五年期限に成成立 和蘭東印度艦隊旗艦ド・セーフエン・プロフィンシ	二
一五	和蘭政府金本位維持聲明 佛露不睦略和協條約批准交換	二
二〇	提出、皇帝慰留さる 和蘭下院解散 佛露不睦略和協條約批准交換	二
二五	佛露不睦略和協條約批准交換 白耳義首相プロツクヴィル留任に決す 英佛兩國政府伊國より埃國への武器輸入に對し 二月二十八日滿期の對獨クレヂット明年三月一日 延長調印 獨逸中央黨機關紙ゲルマニア、ヒットラー内閣攻 撃の應にて三日間發行を停止さる 獨逸前帝夫人ヘルミート近く柏林に赴き旨下す ンにて發表さる 佛首相ダラディエ氏止院にて官吏の減俸反對罷業 聲明を非難す 獨逸中央黨機關紙ゲルマニア發禁を取消さる ヒットラー氏、ケルンにて總選舉に敗るゝも辭職 せずと演説し中央黨を攻撃す 新西蘭議會にて労働黨領袖日本向鐵屑中に獨逸製 火砲混入の件を首相に質問 佛國官吏同盟減俸に反對し罷業を行ふ	二
三〇	佛、獨、伊關係諸國要事件曆日表	二

二二	獨逸關稅引上決定
二二	諾威エンスフンドセード内閣財政問題の爲總辭職
二五	獨逸國會議事堂怪火にて全焼
二七	獨逸内閣「共產黨の危険に對しドイツ人民を防護する」大統領公布
二八	プロシヤ内相ゲリリング氏共產黨大彈壓令を下す
二	社會民主黨機關紙フォルウエルツ社警官隊に襲はる
一	獨逸ヒンデンブルグ大統領「反逆的行爲」に關する緊急令發布
二	獨逸政府在獨逸人壓迫に關し露國政府より抗議を受く
五	獨逸總選舉
六	ヒットラー派ハンブルグ市の政權を奪取
七	獨逸總選舉の結果國粹黨二百八十八名を獲得
八	プロシヤ選舉も國粹派大勝
九	和蘭國立銀行總裁金本位維持聲明
一〇	佛下院外交委員會武器禁輸の決議案採擇
三	獨逸政府バイエルンに國粹派總監を任命、同洲内閣總辭職
三	英佛首相、外相巴里にて重要會議

三三	和蘭外相プロックランド氏下院にて將來日蘭仲裁條約締結を期待すと答ふ
三三	獨逸突撃隊ライン左岸非武装地帯に侵入
二二	マクドナルド氏伊國アロイジ男と再會見、次で獨逸ナドルニ代表と會見
二	ダンチヒ飛行機のウエストブラット上空飛行に波瀾政府嚴重抗議
二	獨逸國民指導宣傳省新設せられグツベルス國相大臣となる
二	佛外務省ナチスのラインランド示威につき警告的聲明
二	獨逸政府財政緊急令發布
二	獨逸外相ライン突撃隊の行動に關する佛國ボンゼ大使の抗議一覽
一四	獨逸ヒットラー政府全國に獨裁的行動を開始す
一五	獨逸ヒットラー政府全國に獨裁的行動を開始す
一六	獨逸國會彈壓、ウイーン市中戒嚴狀態
一六	獨逸國立銀行總裁ルーテレ氏辭任決定
一八	佛國下院議員三十名日佛事情研究會組織
一九	英伊首相第二次會見(歐洲四國條約案の諒解成る)
二〇	佛國政府大統領官邸に臨時閣議を開き四國條約案につき豫め協議を行ふ

三	伊國ムツソリーニ首相獨駐伊大使シユーバー氏を招き、マツク首相等との會見經過を説明す
三	獨逸ヒットラー首相議會に獨裁權要求
三	ミュンヘン警察當局ヒットラー氏暗殺陰謀事件發表
三	佛國政府四國條約暫定承認の風説否認
三	伊國閣議英伊會商是認
三	獨逸の新國會開く(議長ゲリリング氏再選)
三	獨逸大統領國粹派擁護の二緊急令に署名
三	和蘭外相プロックランド氏上院にて經濟封鎖は不可能と答ふ
三	蘭領東印度外米輸入五箇月間制限
三	獨逸政府南洋統治問題は國際的手段によつてのみ解決さるべきものとの聲明を發す
三	佛國爲替關稅發布施行
三	獨逸議會全權委任法案(獨裁權附與)可決、ヒットラー首相施政方針演說
三	プロシヤの前内相社會民主黨領袖ゼヴェリング逮捕
三	伊國ファシスト成立十四週年紀念祭、ムツソリーニ首相演說

三	獨大統領獨裁法に署名
三	バヴアリア州内相ワグナー氏非ナチス諸團體に解散命令
三	佛國閣議四國條約案並戰債問題審議
三	プロシヤ内相ゲリリング氏全州の警察署長に國粹黨員を任命
三	伊國ムツソリーニ首相葡萄牙政府に對し葡領アフリカアシゴラに對し野心なしと通告
三	獨逸國粹派のローゼンベルグ氏日本との委任統治問題交渉を否認す
三	獨逸ワイマル國立劇場の憲法記念劇撤去を命ぜらる
三	獨逸ブラウンスウィックのナチス補助警官隊國權黨の鐵兜團に大手入を行ひ解散を命ず
三	獨逸政府全獨のユダヤ人排斥を宣言す
三	獨逸政府鐵兜團の禁止を取消す
三	ハンブルグの露國通商本部手入さる
三	佛國政府赤字補填案決定し豫算案を下院に提出
三	獨逸カトリック教會ナチス支持可決
三	伯林株式取引所ユダヤ人の賣物のため大暴落
三	ウイーンのクレヂット・アンシュタルト銀行整理

四	四	四	五	五	五
二六	二七	二八	二九	一	三
獨逸政府ユダヤ人入學禁止令發布	獨逸鐵兜團副團長デュステルベルグ中佐罷免 和蘭ペーレンプロック内閣總辭職	英獨新通商條約成る	獨逸鐵兜團長ゼルテ氏同團を解散し國粹黨に合法 をラヂオにて聲明	獨逸共産黨大手入	白耳義政府經濟復興の獨裁權を議會に要求するに 決定
ユーゴー國內のクロアチア獨立派首相マチュク 氏投獄に關聯し内争激化す	獨逸ヒットラー政府社會民主黨系労働組合に大彈壓 幹部多數逮捕	プロシヤにてユダヤ人大學教授數十名一齊罷免	獨逸政府強制労働軍徴集公布	ヒットラー首相産業家聯盟會長ボーレン氏と重要 會見	伊國政府關稅増徴の緊急勅令發布
和蘭より英國へ金の流出續く	獨逸兩國一九三一年議定書批准交換	佛國エリオ氏華府より巴里歸る			

五	五	五	五	五	五
一九	一八	一七	一六	一五	一四
獨逸政府個人企業には不干渉の聲明發表	獨逸突擊隊員デユツセルドルフ地方にて共産黨員 大檢舉	獨逸國粹社會黨要人ローゼンベルグ氏倫敦著	獨逸航空省新設せられゲーリング航空相に任命せ らる	伊國內相にブツフアリーニ氏(ビザ縣知事)任命	獨逸元首相ブリューニング氏中央黨首領に選ばる
獨逸各州の統監に國粹派領袖を任命、聯邦制 完全に解消	ヒットラー政府翰林院に彈壓	伊露新通商條約羅馬にて調印す	佛政府日佛條約廢棄說否認	獨逸國權黨の前領袖オーベルフォーレン氏自殺	佛國閣議職價不拂に一致
佛上院海軍豫算可決	佛國駐獨ボンセ大使佛國新聞の發表禁止に就き獨 外相に抗議	プロシヤ首相の警察權を政府より分離する新法令 發布	ウイーン大學にて國粹黨、社會民主黨、猶太系の		

五	五	五	五	五	五
一〇	一一	一二	一三	一四	一五
三派學生大觀開	獨逸檢事總長社會黨系諸團體の資金全部沒收命令 發布	伯林にて所謂「非ドイツ」的著書の焚刑實施	和蘭中央銀行二分半より三分半に利上、金の流出 熄まず	獨逸クコジツク蔵相賠償年金を紙幣ドルにて支拂 ふ旨國際決済銀行に通告し拒絶さる	佛大統領ルブラン氏暗殺計畫未だに發覺、犯人共 産黨員捕はる
ダンチツヒの國粹黨員社會民主黨の労働組合事務 所を占據	瑞西政府政治團體の制服着用禁止發令	白耳義下院財政獨裁權を政府に賦與案可決	獨逸代表シャハト氏關稅休日案賛成言明	佛國加奈陀との通商協定オッタワにて調印	ダンチツヒ自由市の労働者等ナチスの彈劾に對抗 の爲一部罷業
獨逸政府ナチス彈壓令公布	獨逸宣傳相ゲッペルス氏等國粹黨領袖ウイーンに 乗込む				

五	五	五	五	五	五
二〇	一九	一八	一七	一六	一五
チエツコ政府國粹社會黨及共産黨の定期刊行物輸 入禁止	佛國駐米大使ラブレイ氏米大統領及國務卿訪問、 職價支拂につき懇談	職價に關する米佛の新交渉巴里にて開かる	獨逸バーベン副總理ミュンスタットのナチス大會に て英ヘールンシャム陸相の對獨演說痛撃	和蘭ニイフェルダムの織物工場日本品との競争を 理由に罷業を行ふ	獨逸國會開會、ヒットラー首相軍縮を中心の大演 説
佛首相ダラディエ氏米大統領提案に賛同聲明	プロシヤ議會にてゲーリング首相獨裁權を獲得	獨逸大統領米大統領の提議に熱心な賛成意見通告	佛首相ダラディエ氏上院にて軍縮方針聲明是認さ る	プロシヤ首相ゲーリング氏羅馬を訪問	佛上院豫算案審議、陸、海軍費以外を五分天引に 決定
佛首相ダラディエ氏、ボンクール外相と軍縮問題 協議					

九	二	伊露不侵略條約羅馬にて調印	
九	四	佛國海相レイグ氏死去	
九	六	訪露のエリオ氏が露外國記者團と會見佛露親善を強調	
九	八	佛國植民相サロイ氏海相に下院議員アルベール・ダリシエ氏植民相に補任さる	
九	九	西班牙のアザオ内閣總辭職	
九	九	エリオ氏リトヴィノフ氏と會談後モスコト出發リガに向ふ	
九	一〇	ドルフス氏祖國前進黨組織	
九	一〇	西班牙レルト内閣成る	
九	一〇	佛國航空相ピエール・コット氏訪露飛行に出發	
九	一〇	佛國外相ボンクルール氏英國外務次官エデン氏と巴里にて會見(軍縮)	
九	一〇	米デヴィス氏佛首相、外相と懇談	
九	一〇	佛國首相ドルフス氏獨裁政府樹立を發表	
九	一〇	ドルフス氏フアツシヨ式内閣組織	
九	一〇	獨逸政府復讐閣令施行	
九	一〇	佛國政府一切の政黨彈壓を發表	
九	一〇	佛國首相ドルフス氏黨公債三億志發行發表	
九	一〇	佛國政府定期輸入割當量新制度決定	
九	一〇	三	佛國首相ドルフス氏狙撃され負傷
九	一〇	四	西班牙レルト内閣辭職
九	一〇	八	獨逸宣傳相ゲツベルス氏言論取締法案を閣議に提出(一部承認)
九	一〇	九	チエッコ國政府フラーグのナチス支部に解散を命じ全國に互り彈壓
九	一〇	八	西班牙バリオス内閣成立
九	一〇	九	西班牙議會解散(總選舉十一月十九日)
九	一〇	九	土耳其とユーゴスラヴィアとの友好不侵略條約番府にて假調印
九	一〇	一	白耳義内閣國境強化費七億五千萬法支出案可決
九	一〇	一	獨逸政府國際聯盟並軍縮會議退を宣言す
九	一〇	一	獨逸國會解散(總選舉十一月二十二日)
九	一〇	一	露國政府獨人技師に一齊退國を命ず
九	一〇	一	獨逸政府議事堂放火事件の外人辯護士三名を追放
九	一〇	一	佛國飛行家ベルナルディ氏支那顧問に任命さる
九	一〇	一	獨逸政府ライヒスベック統制法制定
九	一〇	一	佛ドラダイエ首相下院にてインフレ反對演説、赤字補填案緊急審議容認さる
九	一〇	一	佛國ジュノン海軍中將補東艦隊司令官に任せらる
九	一〇	一	獨逸政府正式に聯盟退退をアヴノール事務總長に

一〇	二〇	通告	
一〇	二〇	佛國赤字補填案下院財政委員會に附議	
一〇	二〇	佛内閣六十億赤字補填案を下院に提出す	
一〇	二〇	佛國ドラダイエ内閣下院の赤字補填案表決に敗れ總辭職	
一〇	二〇	獨逸政府國際勞動事務局へも脱退通告	
一〇	二〇	佛國サロイ内閣成立	
一〇	二〇	佛國首相陸海空三省を纏めて國防省新政を決す	
一〇	二〇	佛國サロイ新内閣議會に施政方針宣明、下院政府信任可決(三三〇對三二票)	
一〇	二〇	獨逸外相ノイラト男再軍備要求の激越なる聲明をなす	
一〇	二〇	獨逸プロシヤ首相ゲーリング氏羅馬著	
一〇	二〇	佛國海相シリアニ、航空相バルボ兩氏辭表聽許	
一〇	二〇	獨逸航空相ゲーリング氏伊ムソリーニ首相と懇談	
一〇	二〇	佛社會黨前ドラテイニ首相支持派の議員三十名を除名に決す	
一〇	二〇	佛國政府獨逸選舉に備へ全國に戒嚴令施行	
一〇	二〇	獨逸の三大銀行金融統制の新協定を結ぶ	
一〇	二〇	獨逸選舉結果ナチスの完全勝利に歸す	
一〇	二〇	佛下院外交討論、サロイ、ボンクルール兩相演説の後	
一〇	二〇	一六	下院信任投票可決
一〇	二〇	一七	佛國首相下院を廢しギルト組織の立法機關創立を公表
一〇	二〇	一七	獨逸副總理ドーベン氏ザール統監に任命さる
一〇	二〇	一七	和蘭第一院日蘭仲裁條約批准案可決
一〇	二〇	一七	佛國サロイ内閣豫算均衡案を下院に提出
一〇	二〇	一七	佛國アチ・バリジアン紙伯林中央宣傳局より出でたりと稱する英佛離間の秘密文書を掲ぐ
一〇	二〇	一七	佛下院空軍獨立案可決
一〇	二〇	一七	西班牙總選舉執行
一〇	二〇	一七	佛國の委任統治領シリア獨立に關する佛シ條約兩政府代表間に調印
一〇	二〇	一七	佛國フアシスト黨冬期用制限制定
一〇	二〇	一七	佛國サロイ内閣官吏減俸の信任投票に敗れ總辭職
一〇	二〇	一七	獨逸國境にて兩軍衝突互に死傷者を出す
一〇	二〇	一七	佛國ショータン氏の社會急進黨内閣成る
一〇	二〇	一七	伊太政府對米戰債百萬弗の内金拂を米國に申込む
一〇	二〇	一七	獨逸製鋼石炭四大會社合同成る
一〇	二〇	一七	佛國政府十四億七千五百萬法の五分利大藏省證券發行發表
一〇	二〇	一七	獨逸ナチス領袖ヘス氏褐色シャツ隊參謀總長レ

一、	英ヤトキ、前年より一、二倍増見込み共同
二、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
三、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
四、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
五、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
六、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
七、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
八、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
九、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
十、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
十一、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
十二、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
十三、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
十四、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
十五、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
十六、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
十七、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
十八、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
十九、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同
二十、	加奈陀會社、前年より一、二倍増見込み共同

加奈陀事情

一、加奈陀經濟界の展望

米國經濟界の復興氣分は加奈陀にも波及し最近に於ては各方面の狀況急變して各種企業頓に活氣を呈し、就中株式の奔騰、卸賣小賣の値上りに依る一般商業の活況、工場の再開等による失業者の減少等は顯著なる現象にして、其他旅客運の増加による鐵道収益の増加等加奈陀の經濟界は目下改善の一途を辿り、不況の影響を被りしことも他國に比し少かりし爲め其恢復も亦恐らく迅速なりと觀測せられ、今や各方面共樂觀氣分横溢しつゝあり

二、日加貿易概況

年 號	加奈陀へ輸出	加奈陀より輸入
一九三二	一三、〇六七、一三六	三五、六七二、八四二
一九三三	八、五六二、〇八一	三六、五〇四、八八七

加奈陀事情

三、社會主義的特色を有する第三黨の樹立

加奈陀に於ける政黨は現政府を組織せる保守黨と在野黨たる自由黨の二大政黨以外に殆んど見るべきもの無かりし所這回共同社會聯盟(C. O. U.)と稱する多分に社會主義的特色を有する第三黨組織せられ政界並一般社會に多大の興味を引くに至れり。

四、加奈陀佛蘭西新通商協定の成立

五月中旬加奈陀、佛蘭西間に新通商協定成立せり。本協定は兩國間に關稅を引下げ加奈陀は小麥、チーズ、鮭罐詰、獸皮、人絹原料、生果、農具、銅、錫、鉛等の佛蘭西向輸出を容易

四〇三

にし佛蘭西は衣類、雜貨、藥品、雜誌等二百餘種の加奈陀向輸出を容易ならしめたるものなり。

而して加奈陀は之により對佛貿易の頽勢を挽回するの機を得依つて以て其經濟恢復を一層迅速ならしめ得るものと一般に大に歡迎せられたり。

五、第五回太平洋會議

第五回太平洋會議は八月十四日より加奈陀バンフに於て開催せられ、八月二十八日閉會を告げたり。此間討議せられし主なるものは、日支兩國の人口増加問題と對滿洲移民問題、日本の紡績業の發展と日英兩國の市場爭奪問題。ポイコット可否問題等にして本會議が滿洲問題の直後にして、且日英經濟戰並日米海軍爭霸の尖鋭化しつゝある時として痛く世の視聽を集め、殊に世界的動亂の因子が明に太平洋に浮動しつつあるを世の識者に一層明瞭に認識せしめたり。

六、英帝國聯邦關係會議

英帝國聯邦關係會議は加奈陀外交協會主催の下に九月五日より同二十一日迄トロント市に於て開催せらる。本會議は英國外交協會の各地代表よりなる私的會議にして、英本國並各屬領の直面せる政治、外交、經濟等の諸問題を討議するを目的とするものなり。

而して本會議は元來太平洋會議に於ける英本國及其屬領よりの代表が該會議の成績を見て英國側のみにて此種會議を開催し、本國及各屬領間の關係に就て隔意なき討議を試みんとする發意に由來せるものにして、會議の性質も亦太平洋會議に酷似し會議に於ける討議事項は該會議同様何等の結論に到達せざるものなり。

七、加奈陀に於ける共產分子の

概況

加奈陀に於ける共產分子の活動は逐年増加の傾向にして最近に於ては其勢力特に増大し、一九一八年以來最大の危險狀態を示せるものと稱せられ、大西洋岸より太平洋岸に互る全

加奈陀に蔓延し殊にオンタリオ州及西部加奈陀に於て甚しとなす。

而して其の分子は蘇邦共產黨を宗家となすこと疑なしと雖直接には米國紐育及市俄古の共產黨の餘系にして、加奈陀に於ける其巢窟はトロント市なりと看做され、加奈陀労働保護協會なるものを主體とし之が資金は外國より受けあるが如し。

一般に加奈陀朝野の是等共產分子を嫌惡すること甚しく當局の取締彈壓は頗る至嚴を極む。

而して此取締に従事しある乗馬警察隊は逐年増大せられ、一九三〇年には一、二四五名に過ぎざりしものが、現在に於ては防止勤務者を含み二、三四八名となり、昨年に比し實に九七九名を増加するに至れり。

四〇八

四、墨國及ヴェネズエラ國々交恢復

一九二二年オブレゴン内閣の教育部長ヴァスコンセロスがヴェネズエラ國大統領ゴメス將軍をデイクテイターなりとして大に攻撃せるに對しヴェ國は憤慨し墨國政府に抗議を呈出せるも解決せず、遂に兩國外交官憲の引上となりしが是亦圓滿解決せり。

五、墨西哥西班牙に造艦注文

墨西哥政府は二月十五日駐墨西哥西班牙大使との間に左記艦船建造に關し契約を締結せり。

沿岸警備艇	一〇隻	一五〇噸	三一節
運送艦	五隻	各一、六〇〇噸	二〇節
所要經費	約五、四〇〇、〇〇〇弗		
期限	一八箇月		

尙監督並技術修得の爲技術官を含む海軍使節は三月十二日

出發西國に派遣せらる。

第二 中南米

一、南米自決主義の擡頭

チャコ問題に關し係争中のボリビヤ、パラグワイ、兩國に接壤する亞、伯、智、秘四國は嚴正中立を協定し紛争處理に關しては概ね中立委員會に委せしも、其後同委員會の調停何等進展せざるに及び漸次不滿の意を抱くに至りたるのみならず、自主的に紛争を解決せんとする氣運擡頭し其後レチヤ問題に關し米國が單獨に秘露に對し所謂スチムソン通牒を發して警告を爲すや、亞、伯、智諸國は南米に對する干渉を排斥し諸紛争を自ら決せんとする氣運を促進し遂に亞、智兩國外相は二月二日、三日兩日に互る會見協議の結果南米諸國は南米ブロックを形成し將來南米諸國間に生起すべき如何なる紛争も他の干渉を受くることなく、自ら處理せんとすることを聲明せり。

二、汎米不戰條約

中南米諸國は侵略行爲を禁止し、武力に依り獲得せられたる領土は之を承認せざることを定めたる汎米不戰條約を締結し、十月十一日リオデジャネイロに於て調印を了せり。

該條約加盟國は、アルゼンチン、ブラジル、チリ、メキシコ・ウルグワイ及パラグワイの六箇國にして條約は前文及び十七箇條よりなるものなり。

三、第七回汎米會議

第七回汎米會議は十二月三日よりウルグアイ國モンテビデオ市に於て開催せられ、十二月二十六日閉會せられたり。本會議の大部は各國代表の意見の發表に止まり、實質的成果の見るべきものなく人をして小田原評議の感を深からしむるものありて、其成果として特記すべきものなかりしも、唯汎米諸國體に於ける平和機構の改善、不干渉決議の採擇及關稅低下に關する聲明の三點に稍、著明なるものなりき。

中南米及南米諸邦事情

尙次回の會議地は秘露國リマ市に決定せり。

四、玖馬革命騒亂

世界的經濟的不況に加ふるにマチャード大統領の飽くなき政權慾と壓制に激成せられ、政府打倒運動は八月十一日大統領の極めて愛撫し來れる軍隊の一部亦之に加擔せる爲マは國外に亡命しセスベデス臨時大統領に就任せり。セは善政布施を標榜し特に米國の支持を豫期せらるゝ狀況なりしを以て其政府永續するかに見えたるも憲法改正(同國憲法は米國憲法の模倣に過ぎずして實狀に適せずとの説あり)に對し態度不鮮明なりし等の理由に依り學者連を中心とする急進團體は軍部の一部と連繫し九月五日サンマルチン政府の樹立に成功せり。本第二次革命は一部急進分子の策動に成り國民總意の支持を有せざるのみならず、政府組織其他蘇邦のものに酷似しありしを以て特に米國の氣受も亦好しからず。國內政情騒然たりしも墨國は新政府に好意を有し、ウルガイ巴奈馬は十月五日、ベルーは同九日之を承認せり。米國は固より之を承

四〇九

認せず、唯革命以來特に不人氣となれるウエルス大使をキヤ
フエリーと交替せしめ財政救済等を云爲し陰に策謀するもの
、如かりしが、昭和九年一月十五日サルマンチン辭職し農相
エビア三日天下の後バチスタ大佐(第二次革命の張本人、當
時軍曹)のクーデターに遭ひ十七日國民黨首領カルロスメン
チエタ就任す。一月二十三日米國同政府を承認し次で米玖間
關稅協定の改正、對玖財政的援助、及び干涉權を規定せるブ
ラット修正條項廢止の意圖あるを仄せり。

メンチエタ政府成立後依然政情の安定を見ざるも米國の承
認は結局最後効果發揮するにあらずやと察せらる。

五、チャコ問題

一九三二年七月以來一張一弛全く交綏状態にありし、バラ
グワイ、ボリビア兩國の紛争は遂に翌年五月十日、パラグワ
イの正式宣戰を見るに至れり。

其後チャコ戰線に於けるボ、バ兩軍は概して靜穩なりしも
六月下旬ボ軍はナナワ正面に於て攻撃を開始し、次で七月十

二日全正面に互りバ軍を攻撃したるも、バ軍の反撃する所と
なりて約一週間全面的會戰を見たるも勝敗決する所なく再び
戰鬪交綏するに至れり。

次で十月バ軍が其兵力をゴンドラ正面に集結し小規模の局
部的攻勢を反覆したるも大なる變化を見ずして十二月となれ
り。

然るに十二月十日バ軍のボ軍突出部に對する包圍果然奏效
し、ゴンドラ正面に在りしボ軍第四、第九師團に大打撃を與
へ捕虜一萬三千を獲得せり。

然るに偶、當時第七回汎米會議開催中にして同會議は調停
のため小委員會を組織し、兩國の休戰を提議するに至りしを
以てボ、バ兩國は之れを容認し十二月二十日午前二時より十
一日間休戰すること、なれり。

六、アルゼンチンの聯盟復歸

亞國の聯盟復歸は九月二十五日上院滿場一致の賛成を得た
り。

復歸の理由は亞、伯、智、秘四箇國の努力に拘らず、チャ
コ問題の解決困難なるを以て寧ろ聯盟内に在りて動作するを
有效なりとなすにあるが如く亞國新聞のボ、バ戰爭解決の困
難はボ國の背後に米國あるが爲にして米國の力を排除するに
あらざれば到底見込みなしとて米國を非難せしこと及玖馬事
變の勃發等も復歸の一因にして要するに聯盟に加入しある方
米國を牽制するに便なりと思考せる爲なるが如し。

七、レチシヤ問題

レチシヤ地峽領有に關する秘露、コロンビヤ兩國の紛争は
昨年以來、依然繼續し小戰遂にレチシヤ地方以外にも擴大す
るに至れり。

偶、四月三十日ベルー大統領が反對黨の兇手に狙撃せられ
陸軍最高指導者オスカ・ベネビデス其後を襲ひ大統領に就
任せり。然るにレチシヤ地方の領有意の如くならず、聯盟の
干涉に對しコロンビヤは既に之に應じ、ベルーの地位漸く不
利なる趨向となりしかば五月二十一日ベルーも遂に聯盟の勸
告に従ひ、コロンビヤと平和恢復を圖るに決し其旨聯盟に通

告し兩國は休戰するに至れり。茲に於て聯盟は調停委員を選
出派遣せんとせしも兩國は又米國大統領に之が解決を依頼せ
んとするに至り、解決の前途豫測し得ざるに至れり。

八、我國と中南米諸國との貿易

概況(一九三三年度)

中央亞米利加洲	
國別	日本の輸出
秘 露	三、三二八、四八五
智 利	一、一〇一、四四五
亞 爾 然 丁	一、二二六、七六一
伯 刺 西 爾	二、七六五、八七四
ウ ル グ ア イ	二、四五一、一四三
其 他	七、五二五、二八〇
合 計	三〇、三七九、四三八
南亞米利加洲	
國別	日本の輸入
秘 露	一、五五三、七八五
智 利	二、九六二、六一八
亞 爾 然 丁	六、七三三、八〇五
伯 刺 西 爾	一、〇〇八、一四三
ウ ル グ ア イ	三、一七、七九二
其 他	二、九一、〇三九
合 計	一、二、八七二、一八二

昭和八年度參情報月報總目次

第一 滿洲國關係事項

第一 內政

奉天省治安狀況……………三

黑龍江省治安狀況……………三

吉林省東境各縣行政治安狀況……………四

哈市を中心とする北滿治安の現狀……………四

奉天省内匪賊一般狀況……………七

昭和八年夏季に於ける滿洲匪賊……………一一

第二 外交

東支鐵道に關する蘇滿兩國の繁争……………五

營口附近海賊の英汽船襲撃事件……………五

東支鐵道に關する蘇滿交渉の経緯……………六

東支鐵道車輛問題經過一覽表……………七

第二 軍事

哈市、大黒河間航運復活経緯……………八

奉天城内外錢莊業者の衰微狀況……………一一

第三 支那關係事項

第一 內政

三中全会……………二

軍事統一案の解消(國防委員會の新設)……………五

全國代表大會召集決議……………五

中國々民黨臨時全國代表大會組織法……………六

臨時大會代表選舉法……………六

臨時全國代表大會の延期……………七

廬山會議に就て……………一〇

昭和八年度參情報月報總目次

第一 滿洲國關係事項

第一 內政

事 件 名	月 別	頁
奉天省治安狀況……………	三	一
黑龍江省治安狀況……………	三	一
吉林省東境各縣行政治安狀況……………	四	一
哈市を中心とする北滿治安の現狀……………	四	一
奉天省內匪賊一般狀況……………	七	一
昭和八年夏季に於ける滿洲匪賊……………	一一	一

第二 外交

東支鐵道に關する蘇滿兩國の繁争……………	五	一
營口附近海賊の英汽船襲撃事件……………	五	二
東支鐵道に關する蘇滿交渉の経緯……………	六	一
東支鐵道車輛問題經過一覽表……………	七	一

昭和八年度參情報月報總目次

第三 軍 事

哈市、大黒河間航運復活経緯……………	八	一
奉天城内外錢莊業者の衰微狀況……………	一一	一

第二 支那關係事項

第一 內 政

事 件 名	月 別	頁
三中全会……………	二	七
軍事統一案の解消(國防委員會の新設)……………	五	九
全國代表大會召集決議……………	五	〇
中國々民黨臨時全國代表大會組織法……………	六	八
臨時大會代表選舉法……………	六	九
臨時全國代表大會の延期……………	七	五
廬山會議に就て……………	一〇	三

四一三

國民政府の南京復都……………一〇

段祺瑞の南下……………三

孫科の立法院就任と孫、蔣妥協に對する西南黨部
要人の態度……………三

汪精衛の歸國と行政院長復職……………五

張學良の外遊……………六

宋子文の財政部長辭任……………二

蔣介石の軍人戒飭通電……………五

支那の兵役法……………四

軍事委員會規定の高等中學校以上學校軍事教育規定……………四

全中國に瀰漫せる國家主義中國青年黨勢力の檢討……………六

楊子江増水及水害狀況……………九

支那側の北支政局動搖防止策……………三

張學良の下野並北支の政情……………五

行政院駐平政務整理委員會の設立……………六

停戰協定、雜軍問題等に關する天津新聞論調……………八

黃郛及其腹心の略歴……………九

北支最近の情勢に就て……………一〇

河北軍事整理並北平公安局長更迭問題に就て……………一一

東北鐵隊の兵變と其中央歸屬……………八

北支に於ける抗日運動及學生訓練の概況……………七

馮玉祥の反蔣運動……………七

馮玉祥の反蔣運動其後の情況……………九

察哈爾政情及方振武の懷柔進出に就て……………一

方振武軍再度出兵の情況……………二

非武裝地帯最近の情況……………八

非武裝地帯接收問題の解決……………九

非武裝地帯の接收及治安維持狀況(八月下旬迄)
(附大連會議決定事項の實施狀況)……………一

撫甯附近老耗子匪の討伐に就て……………二

最近に於ける福建事情……………二

西南の反蔣策動……………五

西南情勢近情……………七

西南情勢近情……………七

劉珍年の拘禁と第二十一師の情況……………八

廣西航空界の現情……………一

貴州省の内亂……………一

貴州内亂の繼續……………五

二十年來四川省の内争……………一

支那邊疆地方最近の情勢……………七

支那邊疆地方の近情……………九

新疆省の概況……………二

蒙古救済委員會の成立……………七

西藏軍の西渡侵略……………一

中國共產黨の訓練綱要……………一

河南、湖北省に於ける共產匪の實情……………二

共產軍及剿共軍近況……………四

共產黨軍及剿共軍の近況……………五

共產黨、軍及剿共軍近況……………七

福建に侵入せし共產軍の情況……………一〇

昭和八年八月より十月に至る赤軍福建侵犯の經過……………一二

第二 外事

昭和八年度參情報月報總目次

上海關事件……………一

山海關事件……………二

山海關事件後の支那側の對日戰備……………三

熱河作戰に伴ふ支那軍の行動……………四

天津擾攘事件……………七

北支停戰協定の成立……………七

停戰協定善後處理問題其後の情況……………八

蘇支復交に對する支那側の輿論……………二

米支棉麥借款……………二

上海マニラ間航空路計畫の進展……………一

國民政府の對外借款續報……………一

一九三三年上半期に於ける國民政府の武器及飛行
機購入額……………一

第三 財政

民國以來各省に於ける主要收入の分析……………一〇

北支那に於ける財政問題……………一二

共匪討伐軍費と一位元關稅國庫券發行に就て……………一二

第二 蘇聯邦關係事項

第一 內政

事 件 名	月 別	頁
農村内容刷新とコルホーズ制度確立の努力	一	七一
極東地方行政區劃の變更に就て	三	七
五箇年計畫に關するスターリン演說要旨	三	八
蘇聯邦共産黨の清黨に就て	三	二〇
蘇邦自動車工業の發展に就て	三	二二
蘇邦通信	四	四三
蘇邦メーデーのスローガン	六	七一
再び蘇邦共産黨の清黨に就て	七	五四
共産黨清黨規定	七	五八
クズネツツ炭田	七	六三
チエリヤピンスクに大トラクター工場建設	七	六九
ゴリコフスキー自動車工場の製造能力	七	六九
第二次五箇年計畫公債發行	七	六九
グ・ベ・ウ組織の概要と秘密書類の窃取	八	附録
赤軍高級上級幹部の體育競技會に就て	九	三一
蘇邦在住獨逸農民の窮狀	九	四四
蘇聯邦第二次五年計畫に於ける運輸交通問題	一一	四一

第二 外交

蘇聯邦に於ける民衆生活の一斑	一一	四九
蘇聯邦に於ける初等教育の一斑	一一	七一
現時に於ける蘇聯邦の鐵道運輸行政	一二	七七
蘇聯邦石油の進出と米國	一	八九
蘇支國交恢復に就て	二	三七
蘇支復交に關する支那側の輿論	二	一二
蘇聯邦と他國との間に於ける不侵略中立條約の比較	二	三八
米國と蘇邦	二	四五
東支鐵道に關する蘇滿兩國の競争	五	一
支那革命に對するトロツキーの意見	五	二九
伊蘇の經濟關係	五	六一
東支鐵道に關する蘇滿交渉の経緯	六	一
東支鐵道車輛問題經過一覽表	七	一
蘇聯邦の外國貿易	七	四九
侵略國定義に關する條約に就て	八	三三
蘇聯邦新開の大亞細亞運動觀	八	三六
米國に於ける蘇邦承認問題の近況	九	三七
米國に於ける東支鐵道買收問題に關する輿論	九	三九
蘇國外相の倫敦に於ける活躍	九	五三
米國の對蘇四百萬弗借款の成立に就て	一〇	二六

第四 米大陸關係事項

第一 內政

事 件 名	月 別	頁
米國の蘇邦承認の可否論に就て	一〇	二七
伊蘇親善不侵略條約に伴ふ波瀾の輿論に就て	一一	八九
米蘇關係の近況に對する獨逸の輿論	一一	一一九
佛國より見たる最近の佛蘇接近	一一	一二七
伊蘇間の友好不侵略及中立條約の締結に就て	一二	一三三
蘇聯邦赤軍々人の給養増額	一	七一
蘇聯邦に軍縮の用意ありや	一	三七
最近に於ける蘇聯邦の國防に關する互頭の言	四	二五
ウオロシロフの演說—第一次五箇年計畫は國防を鞏固にせり	四	三六
蘇聯邦の海軍擴張計畫	五	二二
蘇聯の新航空路に就て	七	六二
北海に飛行機十六臺の派遣	七	六四
浦鹽ベトロバウロフスク間航空路開設	七	六七
マキシム・ゴリキー號の建造	七	六八
航空事業に於ける勝利の事實と數字	一二	八〇
赤衛軍の弱點	一二	八四

第三 軍事

事 件 名	月 別	頁
比島獨立法	三	八三
米國に於ける武器禁輸問題	四	五一
米國に於ける兵器禁輸問題續報	四	五三
飛行郵便政府補助の廢止案	六	七九
米國新政府と兵器禁輸	七	八一
一九三二年度に於ける米國外國貿易一覽表	七	八六
玖馬の叛亂に就いて	八	四八
加奈陀の經濟的復興の前途	八	四五
玖馬の叛亂に就いて(續報)	九	四一
米國産業復興の爲め大統領に與へたる非常時權限に就いて	一〇	二二
玖馬の叛亂に就いて(續報)	一〇	三七
産業復興計畫に關する大統領の宣言に就いて	一一	七六
玖馬の叛亂に就いて(續報)	一一	八四
米國の不況克服計畫の將來	一二	九三

第二 外交

山海關事件に關する米國の動向	二	四三
米國と蘇邦	二	四五
米國より眺めたる南米の情勢	二	五〇
南米の情勢と米國	四	五七
戰債の代償として戰略要點たる諸島嶼獲得論	五	七五
日支停戰協定の成立と米國新聞論評	七	八二
米國に於ける蘇邦承認問題の近況	九	三七
東支鐵道問題に關する米國新聞論評	九	三九
米國の對蘇四百萬弗借款の成立に就て	一〇	二六
米國の蘇邦承認の可否論に就て	一〇	二七
海兵撤退及財政監督に關する米國—ハイチ協定調印せらる	一〇	三三
英米及日本	一〇	四〇
米國に於ける對軍縮觀察	一一	七三
米國參謀總長の米陸軍縮小不能報告	一一	七七
米國の陸軍兵力	一一	七八
昨會計年度に於ける年報の抜項	一一	七八
米軍統帥及參謀學校並陸軍大學校の陸軍配當規定改正の發表	一一	八五
一九三二年度歩兵局長年報の要旨	一一	三九
パナマ地帯に於ける戰闘機の索敵訓練	三	九一
米國軍事航空の缺陷	三	九一
米國ニカラガ國撤退	四	五五
米陸軍志氣上の危機	六	七五
米軍事費報	七	八九
米海軍の人員削減案其他に對する軍務局長アブハム少將の反對意見	八	四三
米國陸海軍航空加俸問題	九	四三
米國新海軍政務の概要	一〇	三五
市民保存團(C.O.C.)に關する陸軍の報告	一一	六五
米陸軍の自動車機械化に關する新規要求に就て	一一	七一
米國何の見たる日米海軍の比較	一一	七二
米國騎兵の自動車輸送演習	一二	九一
國防に關する在野軍人例會の決議	一二	九五
米國護國軍條例に就いて	一二	九八
支那に於ける米國航空の進歩	一	八七
蘇邦石油の進出と米國	一	八九
新米國大統領ルーズベルトの略歴	四	六三
アラスカ、シベリヤ間航空問題	六	七六
ア Kron 代船建造勸告	八	四四

第三 軍事

第四 其他

第五 英帝國關係事項

第一 內政

第三 軍事

第二 外交

印度

第六 波蘭、羅馬尼、沿波爾的諸邦及土耳其關係事項

第一 內政

戰債に關する英米の交渉	一	五一
英波石油問題	一	五四
リットン報告と英國の輿論	二	五三
リットン報告に關する英國上院議事	二	七〇
獨逸軍備平等權に對する英國政府の軍縮案	二	七七
英國軍縮提案に對するタイムズ社説	二	八二
滿洲問題に關する英國上院議事	三	九三
滿洲問題に關する議事に對するテレグラフ社	三	九三
滿洲國に關する在支タイムズ特派員通信	四	一〇一
蘇國外相の倫敦に於ける活躍	九	五三
七月五日英下院に於ける極東問題に關する討論	九	五七
支那再建	一〇	六九

四國條約	一〇	七一
滿洲國の現状	一一	一〇三
軍縮會議の決裂	一二	一一三
一九三三年度陸軍豫算	一五	三九
地方軍に關する陸相の演説	一六	一九
英國陸軍の缺陷	一二	一五
印度士官學校の開設	三	九五
印度憲法改正問題	六	二三
日印通商問題	一〇	七三
最近に於ける波羅兩國の政治的諸事項に就て	八	五一
波斯、イラク、亞刺比亞の諸問題	一〇	四七

蘇聯邦に軍縮の用意ありや……………	一	三六	空中戦の第四武器……………	七	九四
獨逸教授の滿洲旅行に關する所感……………	三	四五	最近佛國新聲の論したる極東情勢の觀察の二三……………	七	一一四
滿洲問題の觀察……………	四	六五	蘇邦在住獨逸農民の窮狀……………	九	四五
熱河作戦と兵器輸出禁止問題に對する佛國輿論の概況……………	五	四三	獨逸の露骨なる國民運動に對するに佛國民反感の一端……………	一〇	九五
獨國に於けるメーデーに代る愛國勤勞祭に就て……………	六	五七	獨國防軍内に日本語研究主任將校の任命……………	一一	一二一
スポーツ飛行家勤務服の統一に就て……………	六	六三	佛國航空の支那進出に就て……………	一二	一三〇
獨國の航空機……………	七	六四	佛國の航空機……………	一三	一三〇
獨國の航空機……………	八	六五	佛國の航空機……………	一四	一三〇
獨國の航空機……………	九	六六	佛國の航空機……………	一五	一三〇
獨國の航空機……………	一〇	六七	佛國の航空機……………	一六	一三〇
獨國の航空機……………	一一	六八	佛國の航空機……………	一七	一三〇
獨國の航空機……………	一二	六九	佛國の航空機……………	一八	一三〇
獨國の航空機……………	一三	七〇	佛國の航空機……………	一九	一三〇
獨國の航空機……………	一四	七一	佛國の航空機……………	二〇	一三〇
獨國の航空機……………	一五	七二	佛國の航空機……………	二一	一三〇
獨國の航空機……………	一六	七三	佛國の航空機……………	二二	一三〇
獨國の航空機……………	一七	七四	佛國の航空機……………	二三	一三〇
獨國の航空機……………	一八	七五	佛國の航空機……………	二四	一三〇
獨國の航空機……………	一九	七六	佛國の航空機……………	二五	一三〇
獨國の航空機……………	二〇	七七	佛國の航空機……………	二六	一三〇
獨國の航空機……………	二一	七八	佛國の航空機……………	二七	一三〇
獨國の航空機……………	二二	七九	佛國の航空機……………	二八	一三〇
獨國の航空機……………	二三	八〇	佛國の航空機……………	二九	一三〇
獨國の航空機……………	二四	八一	佛國の航空機……………	三〇	一三〇
獨國の航空機……………	二五	八二	佛國の航空機……………	三一	一三〇
獨國の航空機……………	二六	八三	佛國の航空機……………	三二	一三〇
獨國の航空機……………	二七	八四	佛國の航空機……………	三三	一三〇
獨國の航空機……………	二八	八五	佛國の航空機……………	三四	一三〇
獨國の航空機……………	二九	八六	佛國の航空機……………	三五	一三〇
獨國の航空機……………	三〇	八七	佛國の航空機……………	三六	一三〇
獨國の航空機……………	三一	八八	佛國の航空機……………	三七	一三〇
獨國の航空機……………	三二	八九	佛國の航空機……………	三八	一三〇
獨國の航空機……………	三三	九〇	佛國の航空機……………	三九	一三〇
獨國の航空機……………	三四	九一	佛國の航空機……………	四〇	一三〇
獨國の航空機……………	三五	九二	佛國の航空機……………	四一	一三〇
獨國の航空機……………	三六	九三	佛國の航空機……………	四二	一三〇
獨國の航空機……………	三七	九四	佛國の航空機……………	四三	一三〇
獨國の航空機……………	三八	九五	佛國の航空機……………	四四	一三〇
獨國の航空機……………	三九	九六	佛國の航空機……………	四五	一三〇
獨國の航空機……………	四〇	九七	佛國の航空機……………	四六	一三〇
獨國の航空機……………	四一	九八	佛國の航空機……………	四七	一三〇
獨國の航空機……………	四二	九九	佛國の航空機……………	四八	一三〇
獨國の航空機……………	四三	一〇〇	佛國の航空機……………	四九	一三〇
獨國の航空機……………	四四	一〇一	佛國の航空機……………	五〇	一三〇
獨國の航空機……………	四五	一〇二	佛國の航空機……………	五一	一三〇
獨國の航空機……………	四六	一〇三	佛國の航空機……………	五二	一三〇
獨國の航空機……………	四七	一〇四	佛國の航空機……………	五三	一三〇
獨國の航空機……………	四八	一〇五	佛國の航空機……………	五四	一三〇
獨國の航空機……………	四九	一〇六	佛國の航空機……………	五五	一三〇
獨國の航空機……………	五〇	一〇七	佛國の航空機……………	五六	一三〇
獨國の航空機……………	五一	一〇八	佛國の航空機……………	五七	一三〇
獨國の航空機……………	五二	一〇九	佛國の航空機……………	五八	一三〇
獨國の航空機……………	五三	一〇〇	佛國の航空機……………	五九	一三〇
獨國の航空機……………	五四	一〇一	佛國の航空機……………	六〇	一三〇
獨國の航空機……………	五五	一〇二	佛國の航空機……………	六一	一三〇
獨國の航空機……………	五六	一〇三	佛國の航空機……………	六二	一三〇
獨國の航空機……………	五七	一〇四	佛國の航空機……………	六三	一三〇
獨國の航空機……………	五八	一〇五	佛國の航空機……………	六四	一三〇
獨國の航空機……………	五九	一〇六	佛國の航空機……………	六五	一三〇
獨國の航空機……………	六〇	一〇七	佛國の航空機……………	六六	一三〇
獨國の航空機……………	六一	一〇八	佛國の航空機……………	六七	一三〇
獨國の航空機……………	六二	一〇九	佛國の航空機……………	六八	一三〇
獨國の航空機……………	六三	一〇〇	佛國の航空機……………	六九	一三〇
獨國の航空機……………	六四	一〇一	佛國の航空機……………	七〇	一三〇
獨國の航空機……………	六五	一〇二	佛國の航空機……………	七一	一三〇
獨國の航空機……………	六六	一〇三	佛國の航空機……………	七二	一三〇
獨國の航空機……………	六七	一〇四	佛國の航空機……………	七三	一三〇
獨國の航空機……………	六八	一〇五	佛國の航空機……………	七四	一三〇
獨國の航空機……………	六九	一〇六	佛國の航空機……………	七五	一三〇
獨國の航空機……………	七〇	一〇七	佛國の航空機……………	七六	一三〇
獨國の航空機……………	七一	一〇八	佛國の航空機……………	七七	一三〇
獨國の航空機……………	七二	一〇九	佛國の航空機……………	七八	一三〇
獨國の航空機……………	七三	一〇〇	佛國の航空機……………	七九	一三〇
獨國の航空機……………	七四	一〇一	佛國の航空機……………	八〇	一三〇
獨國の航空機……………	七五	一〇二	佛國の航空機……………	八一	一三〇
獨國の航空機……………	七六	一〇三	佛國の航空機……………	八二	一三〇
獨國の航空機……………	七七	一〇四	佛國の航空機……………	八三	一三〇
獨國の航空機……………	七八	一〇五	佛國の航空機……………	八四	一三〇
獨國の航空機……………	七九	一〇六	佛國の航空機……………	八五	一三〇
獨國の航空機……………	八〇	一〇七	佛國の航空機……………	八六	一三〇
獨國の航空機……………	八一	一〇八	佛國の航空機……………	八七	一三〇
獨國の航空機……………	八二	一〇九	佛國の航空機……………	八八	一三〇
獨國の航空機……………	八三	一〇〇	佛國の航空機……………	八九	一三〇
獨國の航空機……………	八四	一〇一	佛國の航空機……………	九〇	一三〇
獨國の航空機……………	八五	一〇二	佛國の航空機……………	九一	一三〇
獨國の航空機……………	八六	一〇三	佛國の航空機……………	九二	一三〇
獨國の航空機……………	八七	一〇四	佛國の航空機……………	九三	一三〇
獨國の航空機……………	八八	一〇五	佛國の航空機……………	九四	一三〇
獨國の航空機……………	八九	一〇六	佛國の航空機……………	九五	一三〇
獨國の航空機……………	九〇	一〇七	佛國の航空機……………	九六	一三〇
獨國の航空機……………	九一	一〇八	佛國の航空機……………	九七	一三〇
獨國の航空機……………	九二	一〇九	佛國の航空機……………	九八	一三〇
獨國の航空機……………	九三	一〇〇	佛國の航空機……………	九九	一三〇
獨國の航空機……………	九四	一〇一	佛國の航空機……………	一〇〇	一三〇
獨國の航空機……………	九五	一〇二	佛國の航空機……………	一〇一	一三〇
獨國の航空機……………	九六	一〇三	佛國の航空機……………	一〇二	一三〇
獨國の航空機……………	九七	一〇四	佛國の航空機……………	一〇三	一三〇
獨國の航空機……………	九八	一〇五	佛國の航空機……………	一〇四	一三〇
獨國の航空機……………	九九	一〇六	佛國の航空機……………	一〇五	一三〇
獨國の航空機……………	一〇〇	一〇七	佛國の航空機……………	一〇六	一三〇

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 2280

28 June 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: "Annual Report of General Staff Office" for 1933, issued by Gen. Staff Office for Japanese military officers only.

Date: 1 Jun 34 Original () Copy (x) Language:
Japanese

Has it been translated? Yes () No (x)
Has it been photostated? Yes () No (x)

LOCATION OF ORIGINAL

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: War Ministry

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Narcotics;
Aggression Manchuria

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

Report contains factual material which may be listed under following headings, concerning many countries:

1. Internal affairs
2. Diplomacy
3. Military affairs
4. Chronological listing of events

First part of report deals with MANCHUKUO and states that there has been rapid recovery of public order, acceptance of Japanese policemen and administrative officials; schools have been reopened; study of Japanese instituted; studies of various industries and suggested products to be developed more fully are given. Chart of air routes and numbers of weekly flights is given as is a chart showing systematic administrative organization of

Doc. No. 2280
Page 1

Doc. No. 2280 - Page 2 - SUMMARY Cont'd

MANCHUKUO. Latter chart lists an Opium Preparation Organization and elsewhere in report mention is made of decline in poppy raising due to "opium policy". Also, report states that as for opium, Gov't does not put profit to general use, but keeps it only for execution of opium policy, for control, rescue, and education of opium-eaters.

Analyst: 2d Lt Blumhagen

Doc. No. 2280
Page 2

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 2280

Date 29 May 46

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: "Annual Report of General Staff Office" for 1933, issued by Gen. Staff Office for Japanese military officers only.

Date: 1 June 34 Original () Copy () Language: Jap.

Has it been translated? Yes () No ()
Has it been photostated? Yes () No ()

LOCATION OF ORIGINAL (also WITNESS if applicable)

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: War Ministry

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

OPIUM NARCOTICS;

Aggression Manchuria.

SUMMARY OF RELEVANT POINTS (with page references):

Report contains factual material which may be listed under following headings, concerning many countries:

1. Internal affairs
2. Diplomacy
3. Military affairs
4. Chronological listing of events.

First part of report deals with MANCHUKUO and states that there has been rapid recovery of public order; acceptance of Japanese policemen and administrative officials; schools have been reopened; study of Japanese instituted; studies of various industries and suggested products to be developed more fully are given. Chart of air routes and numbers of weekly flights is given as is a chart showing systematic administrative organization of MANCHUKUO. Latter chart lists an Opium Preparation Organization and elsewhere

Analyst: 2d. Lt. Blumhagen.

Doc. No.

(over)

WtW

in report mention is made of decline in poppy
raising due to "opium policy." Also, report states
that as for opium, Govt. does not put profit to general
use, but keeps it only for execution of opium policy,
for control, rescue, and education of opium-eaters.

1.
#2288

M. Fujii

The annual report of General Staff.
(During the 8th year of Showa)
1933

Published June 1, 1934.

Table of Contents.

① The recent prospect of the International relations.
Japan quit League of Nations in March 33

② The affairs in Manchucuo.

I General views of Manchucuo during the last ~~one~~ year.

II Internal affairs.

III Military affairs and maintenance of public order.

IV Diplomacy.

V Finance.

VI Economy and industrial development.

⑦ Systematic organization of the government of Manchucuo and the list of important officials.
(no)

Calendar of important affairs in Manchucuo

Summary

© Affairs in China

I The prospect of the political situation of China in 1933.

II Internal affairs

III External affairs

IV Finance

V Systematic organization of the 5th Kuo Min Tang Government and the list of the important officials.

Calendar of important affairs in China

© Affairs in U.S.S.R.

I Internal Affairs

II Diplomacy

III Military affairs

Calendar of important affairs in U.S.S.R.

© Affairs in U.S.A

I Internal affairs

II Diplomacy

III Military affairs

III Remarks

Calendar of the important affairs in the North American Continent,

⑤ Affairs in the British Empire, Siam and Afghanistan.

Preface.

I The Great Britain.

II India

III Siam

III Afghanistan.

Calendar of the important affairs in British Empire, Egypt, Siam, and Afghanistan.

⑥ Affairs in Poland

I Internal affairs

II Diplomacy.

II Military affairs

⑦ Affairs in Rumania

I Internal affairs

II Diplomacy

III Military affairs

Calendar of the important affairs in Poland and in Rumania.

⑤ Affairs in Turkey, in Balkan and in the countries of the Middle-East.

I Turkey

External affairs, Internal affairs

Internal affairs

Military affairs

II Persia

III Arabic Countries

III Bulgaria

V Greece

1st Appendix Calendar of the important affairs

2nd Appendix The statistics of Budget Trade in Turkey.

3rd Appendix The summary of the progress of the Turkish national policy since 1923.

① Affairs of the Baltic Littoral countries

I Internal affairs

II Diplomacy

III Military affairs

Calendar of the important affairs in the Baltic Littoral countries

② The affairs in the European Continent

Summary of the international connection among the countries of European Continent

③ The affairs in Germany

I Internal affairs

II Diplomacy

III Military affairs

④ The affairs in France

I Internal affairs

II Diplomacy

III Military affairs

⑤ The affairs in Italy

I Internal affairs

II Diplomacy

III Military affairs

- ① Affairs in Spain
- ① Affairs in Belgium
- ① Affairs in Switzerland
- ① Affairs in Holland and in Middle Europe
in North Europe.

I Holland

II Internal affairs in Austria

III Military affairs

- ① Calendar of the important affairs in
the countries connected with France
Germany, Italy.

- ① Affairs in Canada

- ① Affairs in Central and South American
countries

I Mexico

II Central and South America

- ① Combined Table of Contents of Saijoko monthly 1933

- [I Affairs concerning Manchucuo

II Affairs concerning China

III Affairs concerning U.S.S.R.

IV Affairs concerning North America

- V Affairs concerning British Empire
- VI Affairs concerning Poland, Rumania,
Baltic Littoral countries and Turkey
- VII Affairs concerning countries of the European
Continent.

大正三年国民党
 革命の時に 諸君の為に 式と一はに 革命の為に
 此の国民党と 申すは此の
 1923 11
 5 13

民国十一年大本屋の 諸君と云々

十一年 ~~春~~ 孫文が Chan と 相争つた

その時 孫文の 長官の 名を 云々の

Pu May Komde Daijue Kantang 孫文の

今 孫文の 長官の 名を 孫文 田

十=12

廣東

43 10

44 11

Sun Wen

Kwang Tung

1 12

2 13

3 14

Chang Iso Lin

張 作 霖

Yang Wu Tung (楊 序 霆)
 楊

Brüchel

石 岑

Sun Mai Ling (孫 美 齡)

Hsiung Shi Chün (熊 式 輝)

Ho Ying Chin (何 應 欽)

Brüchel

Withdrawal Brüchel

Brüchel

24	1946	Minghuo	22	① 1912
	13	百子 16年	1927	15
<u>11</u>	<u>13</u>	<u>11</u>	<u>5</u>	<u>15</u> 1927
13	1929	5	1922	16

The annual report of General Staff (1933)

The affairs in Manchucuo. (Page 13)

I General views of Manchucuo during 1933.

In March Jochol was put to order and the remnant bandits who occupied various towns and villages were cleared out. Accompanied by this rapid recovery of public order, by the well organized Finance, the revenue and expenditure began to keep the balance and the foundation of the Finance was settled.

Also the collection of old paper-money which were in extreme disorder are making a good progress and soon we shall see the unity of paper money, bank-note.

II Internal affairs

i. Domestic policy.

The adjustment of administrative organization.

Foundamental reorganization of the administration of the districts.

Unity of the polic system.

① Acceptance of many Japanese policemen.

2. Administration of justice.

The preparation for the removal of Extraterritoriality.

Organization of legislation.

Adjustment of judicial organ.

① Acceptance of Japanese judicial officers to direct Manchurians.

3. Legislation.

Compretion of the laws which is necessary for the removal of Extraterritoriality.

Settlement of local system and Industrial system.

III. Education and Cultural business,
Reopening of schools which were
closed for six months after the
Manchurian Incident.

- ① Students, sent to Japan
- ② Study of Japanese language
- ③ The settlement of the Japanese
and Manchurian Cultural Committee.

II. Military affairs and maintenance
of public peace.

1. Clean-up of Jochol
2. Advance of the Kwan Tung Army
to the North China.

Militaristic administration of
Manchuria.

1. Organization of Manchurian
National Army.
- (a) Concentration of economy
and personnel administration.

(B) The settlement of the Central Training School, retraining of old officers and training of new officers both Japanese and Manchurian.

III. Maintenance of public peace.

1. Posing the Kwang Tung Army in wide spread way.

Clearance of bandits

2. The settlement of Peace Maintaining Committee.

○ List of the damages caused by the bandits in the district attached to the South Manchurian Railway.

III. Diplomacy. (International)

Notwithstanding that the League of Nations did not recognize Manchuria, she wishes to have peaceful relations with every country and she expects a rapid removal

of Extraterritoriality

The result of the diplomatic activity of the Government in the last year is as follows.

1. About the long standing debt of the old North East Government, the Government of Manchucuo paid 2,810,000 yen in cash and 5,150,000 yen by bonds.
2. Settlement of the rule about passport and the
3. For the purpose of introducing Manchucuo to the world the Government gives every help for the foreign observers and distribute the material introducing the affairs of the country
4. Combining the economical materials abroad, the Government issues "the Oversea Commercial Review".
A rapid report abroad of the commercial and economical affairs of the country.

(Referring to Japan)

March 17, Japan quit League of Nations

In March, Japan and Manchuro signed the pact about the settlement of Japanese Manchurian co-investment company.

The settlement of Manchurian Legation in Japan. (Minister Tei Shi Gen-Ting Shih) (Councillor Takeshi Hara) ^{Yuan} Japanese.

(Referring to U.S.S.R.)

Started a parley between Manchuro and U.S.S.R. about the purchase of North Manchurian Railway, but that parley is at a standstill owing to the gap of the opinion.

V Finance

The revenue and expenditure are well balanced.

The total annual budget of 2nd year of Daido-1933, revenue and expenditure com-

7.
#2228

lined amounts some 149,60,000 yen

© The Japanese revenue officers are put in to the internal taxation organ.

Modernization of finance organization.

The arrangement of Internal Tax

Revision of tariff rates.

Monopoly of salt and opium.

As for opium the Government does not put the profit for general use, but keeps it only for the execution of the opium policy, for the control, rescue and education of opium-eater.

The table of total budget of Manchuro 1933. (Omit)

National debt and amortization fund.

VI Economy and development of industry

1. Monetary system and money market

(1) Stability of the price of paper money.

June 14, published the Gold purchasing law. Let the Manchurian Central Bank execute the gold purchasing.

(2) Unification of paper money.

(3) Repletion and reorganization of Central Bank

(4) Organization of money market.

November 1933 published the Banking Law. Settlement of the Banking Committee.

2. Industry,

(1) Agriculture.

Important Product; Soya-beans, Kao Rian, millet, corn, besides they started to cultivate cotton, wheat, tobacco, hemp-plant,

peanut, gingelly, beetroot, fruits, greens.
 Recommendation and instruction of breeding
 silkworm.

Poppy, gradually dropping its production
 owing to the Opium Policy.

(2) Forest Industry

The Government is trying to take possession
 of forests, and settled five forest offices.
 They are trying to make the pulp factory,
 but are careful not to have any friction
 with the pulp industry of Japan.

(3) Mining

Control of coal industry

About the minerals which are important
 in view of Militaristic and National
 defence standpoint, they try to
 make a special company, co-inves-
 ted by Government and people.

(4) Salt industry

Export salt to Japan.

Domestic demand of salt is increasing owing to the activity of industry.

(5) Live stock

Improvement and increase of cattle, specially horses.

(6) Industry

Trying to make special firm of oil and motor car.

(7) Electric industry

Planning the unity of electric industry

(8) Fishery

Planning a fishing experimental station.

(9) Commerce.

Trying to extend the market of domestic products.

Trade market. The government reorganized Harbin Provision Trade Market and made the Japanese and Manchurian co-invested company, and prohibited a new settlement of that for some time.

10. Foreign Trade.

The important trading countries, Japan, Korea, China, U.S.S.R., Hong Kong, India, Dutch Indies, Great Britain, France, Germany, Belgium, Holland, Italy, U.S.A.

3. Traffic.

○ The railways which were opened during 1933 are as follows

a. Jung Hua - Tuchen Chiang ^{line}, b. Tai Tung - Haidun ^{line}
c. La Ha - Neit Ho line.

○ Drive ways, along railway and supposed railway are put under government's management.

○ Settled the organization of Navigation Policy Bureau.

For the control of riparian transportation business, settled the Riparian Transportation Law.

○ Aviation

Air routes and number of times

1. Shigishu - Mukden	6 times per week
2. Dairen - Hsin King	7 " " "
3. Hsin King - Harbin - Chichiharu	10 " " "
4. Chichiharu - Man-chow-li	2 " " "
5. Mukden - Chin Chow	6 " " "
6. Chin Chow - Lin Yuan - Cheng Te	4 " " "
7. Chin Chow - Ho Teng	2 " " "
8. Ho Teng - Wei Chang	1 " " "
9. Hsing Kin - Tu dless	3 " " "
10. Harbin - Fo Chin	3 " " "
11. Harbin - Tung King	3 times per month
12. Chichiharu - Hei Ho	3 " per week

III Communication :

Completed the unity of communicative organization.

○ Till 1933 the Manchurian Government directed their own telegraph and telephone business, but on August 31 1933, they settled the Manchurian Telegraph and telephone Co. Ltd., semi-official and co-invested by Japan and Manchukuo

○ Planning the Great Radio Bureau and Great Broadcasting Station in and a broadcasting station in

V. City Planning :

Planning of the Capital within 5 years
 Modernization of other important towns

Diplomatic Department

President Shokai Seki (Chinese)

Vice President Chuichi Ohashi (Japanese)

